



研究室紹介号

milk

知識情報・図書館学類誌

Extra

October, 2023

知識情報・図書館学類誌MILKとは？

M Management

I Information

L Library

K Knowledge

2007年の創刊以来、学類生ならではの目線で学類生に有益な情報を
年2回（7月・12月）お届けしています。

今回は研究室紹介号をお送りいたします。

CONTENTS

知識科学主専攻

于海 涛 研究室	02
辻 慶 太 研究室	03
照 山 絢 子 研究室	05
叶 少 瑜 研究室	06
横 山 幹 子 研究室	07
松 林 麻 実 子 研究室	08
寺 地 美 奈 子 研究室	09

知識情報システム主専攻

宇 陀 則 彦 ・ 松 村 敦 研究室	10
鈴 木 伸 崇 研究室	12
加 藤 誠 研究室	13
阪 口 哲 男 研究室	14
関 洋 平 研究室	15
高 久 雅 生 研究室	16
時 井 真 紀 研究室	17
金 宣 経 研究室	18
森 嶋 厚 行 ・ 伊 藤 寛 祥 研究室 (融合知能デザイン研究室)	19

情報資源経営主専攻

鈴 木 佳 苗 研究室	21
吉 田 右 子 研究室	22
小 泉 公 乃 研究室	23
村 井 麻 衣 子 研究室	24
小 野 永 貴 研究室	25
高 良 幸 哉 研究室	26
武 田 将 季 研究室	27
西 川 開 研究室	28
原 淳 之 研究室	29
村 田 光 司 研究室	30

※執筆を承諾していただいた先生方だけの掲載となります。学生
を募集する研究室のすべてについては、学類からの掲示などでご
確認ください。なお本冊子に掲載されております情報は2023年9
月時点の情報です。



筑波大学 II 研究室は、情報知能の研究を行っている研究室です。II は Information Intelligence の略です。研究室の詳細についてはホームページをご覧ください：<https://ii-research.github.io>

ゼミの頻度・年間スケジュール

ゼミは週 1 回行います。ゼミの前にはラボノートを準備してくるのがルールです。着手発表会や中間発表会の前後に学内外他研究室との合同ゼミを行い、多様なフィードバックを得ながら研究を進めていきます。

学生の研究テーマ例

- 対話システムにおけるランキング学習の応用
- 健康情報の検索における説明可能なランク学習モデルの探索
- 個人化と多様化の最適なトレードオフに基づいた検索意図の明確化

II 研究室の最近のニュース

- 2023.08: イギリス・グラスゴー大学の Joemon Jose 教授が II 研究室を訪問しました。
- 2023.07: 中国・武漢大学信息管理学院の代表団が II 研究室を訪問しました。
- 2022.09: 村松さん(2021 年修了)が筆頭著者の、画像分類におけるスパイキングニューラルネットワーク(SNN)の活用に関する論文が、IEICE Transactions Online (電子論文誌)に採択された。
- 2022.08: 張さん(修士 2 年、主指導:上保先生、副指導:于先生)が筆頭著者の、ニュース記事の背景リンク(News Background Linking)に関する論文が、CIKM2022 にショートペーパーとして採択された。
- 2022.07: 于先生の研究が筑波大学プレスリリースに掲載された。
- 2021.12: 于先生が筆頭著者の、検索結果多様化に関する論文が、AI 研究のトップカンファレンスである AAAI2022 にフルペーパーとして採択された(採択率 15%=1349/9251 投稿)。
- 2021.02: 村本さん(修士 2 年)が令和 2 年度図書館情報メディア研究科長表彰を獲得した。
- 2020.09: 村本さん(修士 2 年)が CIKM2020 の発表について、ACM SIGIR Student Travel Grant を獲得した。
- 2020.07: 村本さん(修士 2 年)が筆頭著者の、ディープメトリックラーニング(Deep Metric Learning)に関する論文が、CIKM2020 にショートペーパーとして採択された(採択率 26%=103/397 投稿)。

メッセージ

第 3 次人工知能ブームを牽引しているのが機械学習技術の進化だといわれることは皆さんもご存知のことでしょう。本研究室は、機械学習あるいは深層学習について深く理解し、実践し、現実の問題を解決できる力の養成をめざしています。大学時代の成果は、考え方と熱意と能力の 3 つの要素の掛け算で決まると考えています。勉学以外にも積極的に色々なことに挑戦し、多くを経験し学んで欲しいと思います。

旺盛な好奇心と柔軟な思考力を持ち、機械学習を通して現実問題を解決したいと願っている皆さんを幅広く募集します。毎年 10 月に開催するオープンラボに参加することをオススメします。それまで待てない、という方は個別にメールをください。連絡先はホームページにあります。

辻慶太研究室

現在、日本では貧困家庭の増加が進んでいます。OECD (2021)によると「大人が1人で子どもが少なくとも1人いる世帯」の貧困率は48.3%で、OECDが挙げる44カ国中3番目に高いです。これより高い国はブラジル(54.8%)と南アフリカ(49.8%)だけです。また子ども食堂は2012年の発足以来増え続け、2018年には2,286箇所だったのが2022年には7,363箇所と、5年間で3倍以上に増えています(認定NPO法人全国子ども食堂支援センターむすびえ(2022))。もはや豊かではない日本の公立図書館は、貧困家庭の子どもの学習や成長に役立つ図書をこれまで以上に提供すべきではないかと私は考えています。こうした背景から現在、以下のような研究を、一部行って下さる方を募集しています。

- (a) こども家庭庁、文部科学省、独立行政法人福祉医療機構による「こどもの未来応援基金事業」に選定されている556団体から対象を選び、アンケート調査やインタビュー調査を行って、貧困家庭の子どもに必要な・有効な図書を尋ねます。また実際に子どもに提供している図書があればその書誌情報を記録します。
- (b) 貧困家庭の子どもを視野に入れたサービスを展開している公立図書館にインタビュー調査を行い、そうした子どもに必要な・有効な図書を尋ねます。実際に提供している図書があるならその書誌情報を記録します。

上記のようにして特定した図書を、公立図書館が所蔵し、貧困家庭の子どもを支援する団体に団体貸出することを提案したいです。

先述の背景から、私はこの1年間に以下の2つの研究を行いました。

(1) 貧困家庭の子どもが公立図書館にあってほしいと思う図書や公立図書館の利用頻度に関するアンケート調査

2022年9月に15歳から19歳までの631人にLINEリサーチでアンケート調査を行いました。631人中、相対的に貧困の子どもが多い「一人親または父母なし」の世帯の者は78人で、このうち15人は週1時間以上のアルバイトをしていました。私は、この15人は貧困である可能性が高いとみなし、分析の焦点を当てました。具体的には、公立図書館をどの程度使っているか、公立図書館にあってほしいと思う図書等を尋ねました。結果、上記15人のうち4人、即ち26.7%が週に1回以上公立図書館を使っており、その割合は他の者の3.6%より有意水準0.01で高かったです。即ち、貧困家庭の子どもほど公立図書館を使っている可能性があることが示されました。公立図書館にあってほしい図書として、全体で最もよく選ばれたのは「鬼滅の刃、SPY×FAMILYなどの娯楽マンガ」で、44.4%の者がこれを選んだのに対し、上記15人のうち娯楽マンガを選んだ者は13.3%に過ぎませんでした。彼らが最もよく選んだのは「英語の参考書や問題集」で33.3%に達しました。全般に貧困家庭の子どもは、娯楽マンガより参考書や問題集が公立図書館にあってほしいと考えていることが示されました(Tsuji (2022))。

(2) 公立図書館における中高生向け参考書・問題集の所蔵調査とアンケート調査

所蔵調査ではまず、参考書・問題集に関する網羅的な通信販売サイトである「学参ドットコム」で人気上位10%の652タイトルを調査対象としました。次にカーリルの図書館APIを用いて、2022年9月、公立図書館がどの程度それらを所蔵しているかを調べました。結果、6タイトル以上の参考書・問題集を所蔵していた図書館は25館に過ぎず、3タイトル以上所蔵していた図書館は113である一方、全く所蔵していない図書館の数は893

にのびりました。日本の公立図書館は参考書・問題集をほとんど所蔵していない可能性が高いことが示されました。

次に3タイトル以上の参考書・問題集を所蔵していた上記113館のうち、メールアドレスや問合せフォームが確認できた67館に電子的にアンケートを送付しました。全く所蔵していない893館からは245館を無作為に抽出し、同じく連絡先が確認できた154館に送付しました。調査は2023年3月に行い、参考書・問題集を所蔵していない理由、書き込みの程度、子ども食堂への団体貸出など貧困家庭を視野に入れたサービス提供の有無、などを尋ねました。結果、所蔵しない理由として最も多かったのは「書き込みへの懸念」で、46.7%(28館)がこれを選んでいました。が、書き込みに関して、参考書・問題集を所蔵している館は「他の図書と比べて変わらない」と回答する場合が最も多く、41.9%(26館)を占めました。「他の図書より多い」と回答したのは2館で、1館は「少ない」としていました。以上のことから、参考書・問題集を所蔵しても、非所蔵館が懸念している問題は起きない可能性が示されました。子ども食堂への団体貸出を行っている館は、上記62館中では8館(13.0%)、60館中では5館(8.3%)にとどまりましたが、前例はあることが確認できました(Ogawa & Tsuji (2023))。

【引用文献】

- Ogawa, M. and Tsuji, K. (2023) Study-aid Books and Workbooks in Japanese Public Libraries: Questionnaire and Holdings Survey. Procs of the 16th ESKM, 12p. (No Pagination).
- Tsuji, K. (2022) Study-Aid Books, Workbooks, and IT Equipment as New Materials for School Students in Japanese Public Libraries. Jurnal Ilmu Informasi, Perpustakaan, dan Kearsipan (Information, Library and Archive Science Journal), 24(2), p.114-125.

ちなみに私はこれまで以下のテーマでも論文を書いてきました。図書推薦はもう飽きた上に適任な先生がたくさんいらっしゃるのので気が進みませんが、それ以外のテーマでしたら指導できます。

- (1) 国立国会図書館が所蔵せず公共図書館が所蔵・除籍している図書(2019年～)
- (2) Wikipedia 閲覧者に対する図書館蔵書推薦システムの開発(2016～19年)
- (3) 図書館の利用量を増加させるラーニング・コモンズの要素の特定(2014～15年)
- (4) 貸出履歴等を用いた機械学習による図書推薦システムの開発(2011～14年)
- (5) 公共図書館のレファレンスサービスとQ&Aサイトの正答率比較(2009～11年)
- (6) 司書資格取得者のその後の人生に関する追跡調査(2006～08年)

研究指導の概要

ゼミは週1回で1人約30分です。研究テーマが決まっていな方には皆でテーマを考え、決まった後は進捗を発表し合うという形を取ります。

受け入れの条件

面談をしたいので、配属を希望される方はメールを下さい。私のアドレスは keita@slis.tsukuba.ac.jp です。

その他

私が発表してきた論文は <http://slis.sakura.ne.jp/gyoseki.html> にあります。よかったら参考にしてください。

照山研究室

1. 概要

- 現在のメンバー : 4年生5名(科学3名、資源2名) / 院生5名 / 研究生1名
- 研究室 : 情報メディアユニオン3階・学系共同研究スタジオ4(303-1)
(常駐可。ソファ、PC等あります。) ※叶研との共同研究室
- 形式 : 週1回2限連続でゼミをしています(ゼミの日程は、学期始めにそれぞれの時間割を確認して、全員が被らない日程を探します)。文献の輪読、調査報告等、担当者がレジュメを作って発表します。長期休暇中はゼミなし(各自じっくりフィールドワークに取り組むことを期待します)。
- 連絡先 : teruyama@slis.tsukuba.ac.jp (照山絢子)



▲本棚には、輪読に使用する書籍や、過去の学生が研究に使用した書籍が配架されています。

2. メンバー募集

基本的には調査の方法として、「インタビュー」*及び「フィールドワーク」を伴う研究をサポートします。

*対面での調査の可否については新型コロナウイルスの状況に応じて判断します。

具体的には：

- 特定の間やコミュニティに所属する人々、また特定の属性を持つ人々について研究する。
(例) 図書館、特定の店、地域の集まり、患者会、自助グループ、社会運動グループなど
- コミュニティに出向いて活動を共にしたり、所属する人々にインタビューを実施したりする。
- コミュニケーションを通じて彼らが共有する文化、価値観、規範などを明らかにしていく。

フットワークが軽く、人と話すのが好きで、幅広い興味や問題意識を持てる学生を募集します。

受入人数：最大5名 知識科学専攻0～5名 情報資源経営専攻0～2名

今年の4年生の研究テーマ：フィールドワークの場所

- ・ ウルトラス(熱狂的なサッカーサポーター集団)に関する研究：福岡県
- ・ コンテンツツーリズム(聖地巡礼)に関する研究：兵庫県西宮市
- ・ 高校野球に関する研究：鹿児島県奄美大島
- ・ 発達障害当事者会に関する研究：非公開
- ・ ステップファミリーに関する研究：場所非限定

とある4年生Aさんが考える本研究室のおすすめポイント

- ・ 先生のLINEの返信が早い(感動します)。
- ・ 研究室は24時間使い放題(鍵付きで研究室内にはエアコン、電子レンジ、冷蔵庫、ソファなどがあります)
- ・ 遠方のフィールドワークも事前申請があれば、交通費が返ってくる！
- ・ 先輩方が過去に書いたレジュメやスライドが閲覧できて参考になる！(結構役立ちます)
- ・ 他の研究室と比べてなぜか優秀な人が多い(気がする)。

3. Q & A

Q1. 卒業研究はどのように進めますか？ 先生に相談しながら進められますか？

基本的に研究は各自で行いますが、先生から適切な指導と助言を頂きながら進められます。

Q2. 研究テーマはどのようなものがありますか？

過去の学生の研究テーマについては、学類ホームページや希望研究室登録システム HOPE などからご確認ください。

内容は人によって様々ですが、特定のコミュニティでのフィールドワークという点は共通しています。

Q3. 飲み会やゼミ合宿はありますか？

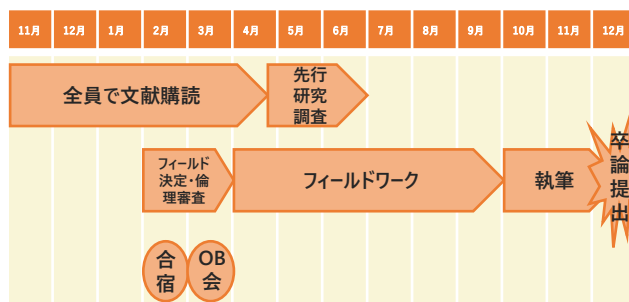
飲み会は年に2～3回、慰労会のような形であり、合宿は現地で行う研究旅行です。今年3月には奄美大島での研究旅行を行いました。

Q4. どのような雰囲気の研究室ですか？

和やかな雰囲気の研究室です。ゼミ生間で活発に意見交換が行われ、色々な考え方に触れられます。

Q5. 年間スケジュールを教えてください。

卒論提出までのスケジュールは右の図の通りです。



メディア心理学研究室の紹介

- ・ 教員：叶 少瑜 Email: shaoyu@slis.tsukuba.ac.jp
- ・ 研究室 教員：7D206 号室 学生：ユニオン 303-1
- ・ ゼミ指導：全体ゼミによる進捗報告と共に、必要に応じて個人指導による指導も行います。ゼミは対面とオンラインで併用します
- ★研究内容：主にメディア心理学のアプローチから、対人コミュニケーションにおけるメディア使用の影響を究明するため、主として量的調査法と実験法を用います。
- ★研究に対する捉え方：料理することと同じだと思っています(笑)。



本研究室では、現在以下のような研究を進めていますが、これらに限定されずに、コミュニケーションとメディアに興味・関心のある方を歓迎します。なお、本研究室は人を対象にする研究するため、フットワークが軽く、人間嫌いではない方を優先して受入れます。

【メディア使用と幸福感】

対人信頼感の高い人がより幸せに感じていますよ！それは、対人信頼感の高い人は対面でもオンライン上でも多くの人と交流し、広い社会的ネットワークを構築することができ、様々なサポートが得られるため、心理的幸福感を高めることができるのです。では、どうすれば信頼感を高めることができるのでしょうか。

【Before/With コロナと社会的適応】

「モバイル×ソーシャル時代」時代において、COVID-19の影響で変わった生活様式や対人関係が如何に我々の社会的適応と関係するのかが最近の研究課題として進めています。また、Twitter等が自殺幫助のツールとして使われた事例から、若年層の不適切なメディア使用を防ぐことができるか非常に重要だと考えます。ぜひ一緒に検討しましょう！

【生きやすい社会作り】

日本では10～39歳の死因第1位は自殺であった。これは「生きにくさ」が主な理由と考えられる。特に近年、メディアの広範囲な普及により、「ネットいじめ」に遭ったり、Twitterで自殺幫助を求めたりする等、時には不適切なメディア使用が人々を苦しめることもある。如何にすれば生きやすい社会作りができるか、一緒に考えませんか？



2016 年度卒論生渋谷さんが
学会発表にて優秀賞受賞



2016 年度卒論生内田さんが
学群長受賞

横山研究室

横山研究室では、哲学的視点から、知識を巡るさまざまな問題を扱います。学生は、知識の本質、知識の限界、知識の共有等々さまざまな問題に取り組んでいます。

「哲学的視点から」の意味、卒業研究の二つの方向性

- ① 主張したいことを言うために、哲学での議論を参照する。
たとえば、
「『Le Petit Prince』日本語版における翻訳間の類似性・差異性をグッドマンの記号論を用いて考える」
「ウォルトンのごっこ遊び理論を使い漫才とコントを比較分析する」
「ウィットゲンシュタインの言語ゲーム論を使い宮澤賢治作品における猫について考える」
「グライスの理論を使い別役実のコントについて考える」
- ② 哲学で問題になっていることについて、他の哲学者の議論を参照に論じる。
たとえば、
「哲学の方法論として直観は使えるか」
「人の心は脳に還元できるか」
「何をもって同じ人間と言えるか（人格の同一性）」
「独我論をどう考えるか」

現在のゼミの概要

現在のメンバー；4年生2名：研究室（7D517）：募集；3名
長期休暇の例外を除き、週1回のゼミ。ゼミの日時は、ゼミ生の1週間の予定を考えて、ゼミのメンバーが決まった時点で、相談して決めます。ゼミにかかる時間は、大体、2時間から3時間です。一人一人が1週間でやってきたことを発表し、それに対して、ゼミ生と教員で議論します。それを人数分繰り返します。3年生の内にテーマを絞り、4年になってから先行研究の調査、中間発表後は、テーマについての考察というのが一般的な流れです。

2022年度ゼミ生の現時点での研究課題

- 「Indigo la Endにおける時間を表す語の役割について」
「『寄生獣』における胸の穴の役割」

卒業後はどうするのか？

いろんな人がいます。大学院に進学した人（自他）、大学の図書館員になった人、故郷に帰って市役所に勤めた人、高校の数学の先生になった人、アーカイブ関係、SEやテクニカルライティング関係、金融機関や食品関係の会社の総合職、専門学校に行きなおしてマッサージ師という人もいました。本当にさまざまです。最近は、アーカイブ関係、SEやテクニカルライティング関係が多いです。就職が決まったらゼミの先輩がいたとの報告を近年よく受けます。どんな仕事についても役に立つ、問題を発見し、その問題について論理的に考え、問題を解決していく力を身に付けていただければと思っています。

興味のある方は、横山（mikiko@slis.tsukuba.ac.jp）までご連絡ください。

松林麻実子研究室

指導教員研究室:7D215

学生共同研究室:情報メディアユニオン 4F 405-1

構成員(2023 年 10 月 1 日現在)

知識情報・図書館学類 4 年次 2 名(知識科学)



知識科学主専攻 3 名, 情報資源経営主専攻 2 名
まで受け入れます。

◆指導可能な研究テーマ

情報行動(情報探索・利用・共有・管理など)と情報メディアとの関係について、主として社会学もしくは社会情報学観点から考察することを目指す研究テーマ全般。得意な研究手法は、ユーザ研究では半構造化インタビュー法、メディア研究では内容分析(テキスト分析)・談話分析。必要に応じて実験や質問紙調査などを組み合わせることも。

- ☆ 若年層におけるニュース消費:従来は、ニュース消費と言えば、(決まった)新聞を読む、もしくはテレビニュースを見るという習慣的かつ受動的な行為を意味しましたが、現在ではソーシャルメディアを介した“ながら行為”が中心であると言われています。また、なかには、コメントを書き込むことで自ら「ニュースに参加」できるようになることもあります。このようなメディアを利用する若年層にとっての「ニュース消費」について考えます。
- ☆ 「趣味」の文脈での情報行動・情報管理:「推し活」の文脈でどのような情報を獲得したり生成したりするのか、獲得・生成した情報をどのように管理しているのか、に関してフィールドワークを通して考えます。
- ☆ メディア表現に現れる思想:文章や映像に現れる考え方や評価の視点について、内容分析の手法を用いて明らかにします。

上記のテーマ以外にも広く情報行動研究や情報メディア研究に興味がある人たちと研究活動をやっていきたいと思っていますので、興味がある事柄について話してみてください。

◆ゼミの運営方法

週 1 回 2 時間程度の定例ゼミ(対面)を基本とします。状況に応じて個人面談も行いますが、他の仲間が研究活動を進める様子を見て学ぶことも重要だと考えますので、完全なマンツーマン指導を希望する方にはあまり向かないかもしれません。なお、プレゼミ(3 年次)では興味がある研究テーマに関わる文献検索と読解をメインに、2~3 月頃から卒業研究の具体的なテーマを考え始めて、本ゼミ(4 年次)では卒業研究のテーマ一本に絞るというペースで進めていく予定です。研究室に常駐することは求めませんが、卒業研究を優先できる人を希望します。



◆本研究室を希望する場合は必ず面談を受けてください

研究室訪問期間中に必ず面談(対面/オンライン)を受けてください。在室していれば飛び込みでも対応しますが、事前にメールで希望する日時と形式について予約していただくのが確実です。面談で自分の興味がどのようなところにあるかを簡単にでかまいませんので説明できるようにしておいてください。

よく学び、よく遊べ Work Hard, Play Harder

寺地美奈子研究室

教員研究室：7D307

共同研究室：7D240

連絡先：minakota@slis.tsukuba.ac.jp

メンバー募集

知識科学専攻3名、情報資源経営専攻2名を募集しています。

ゼミでは、新聞・ラジオ・テレビなどのオールドメディアから現在のメディアに至るまで幅広く対象とし、メディアが社会をどのように形成し、また社会がどのようにメディアを形成しているのか、地域や技術を出発点として考えていきたいと思えます。研究方法としては、番組分析やデータ分析、フィールドワーク・資料収集による実証的調査などがあります。研究室に所属する学生の皆さんには、基礎文献を広く読み、主体的にコツコツ勉強を積み重ね、自分の力で何かを発見をしてほしいと考えています。

本研究室を希望する場合は、必ず面談を受けてください。対面・オンラインどちらでも構いません。まずは上記のメールアドレスに、面談希望のメールを送ってください。定員を上回る場合は「これまで勉強してきたこと、今関心があるテーマについて」（400字以上）とGPAによって総合的に選考いたします。

研究テーマの一例

◆放送・インターネットのローカリティ

- ・ YouTubeにおける茨城県の地域情報のデータ分析・カテゴリ分析
- ・ NHK水戸『いば6』の番組分析（言説、映像の内容など）
- ・ 『月曜から夜ふかし』における地域表象の分析（茨城県はどう扱われているのか？）

◆メディア技術と文化

- ・ 茨城県における携帯3大キャリアの電波範囲とその範囲が社会に与える影響
- ・ 茨城県におけるテレビ電波範囲の変遷とテレビの使われ方
- ・ KDDI茨城衛星通信センターの設立と電波をめぐる文化
- ・ つくばスマートシティの「スマート」さ

※上記の内容に限りません

ゼミの運営方法

基本的に、週に1回2時間程度のゼミを実施します。12月からのプレゼミでは基本的な文献の講読を進めながら、研究テーマの方向性を考えてもらいます。4月からは各自で研究を進め、ゼミでは進捗状況を発表し合い、皆で議論を重ねます。できれば、全体でのフィールドワークやゼミ合宿などを実施したいと考えています。



宇陀則彦・松村敦研究室紹介 (用語集)

雨男

宇陀先生の別称。雨が降ると「宇陀先生、近くにいますか?」と言われる。体調がよいと嵐になり、体調が悪いと晴れる。過去には台風を呼び研究会を中止に追い込んだこともある。

異文化交流推進大臣

宴会大臣をかつこよく言い換えただけ。

うだまつ研

宇陀研と松村研がゼミや合宿やイベントを共同で行うときに、まとめて呼ぶときの名称。

宇陀・松村研プレゼン心得

発表スライドの作成と発表時に考えなければならぬことを五カ条にまとめたもの。その五に「笑いを三つ取ること」とされている点に特徴がある。

打ち上げ

卒論の発表会後にうだまつ研合同で行う、自由参加で楽しいイベント。松村研はほぼ全員集まるが、なぜか宇陀研は毎回揃わない。宇陀研が全員揃って参加する日は果たしていつなのか…?

うどん

松村先生の好物。つくばにはまともなうどん屋がないので、第一回ゼミ合宿を香川にしたほど。最近、「やまびこ弁天」へ通う「うどん会」が発足した。

絵本

松村研のメインテーマの一つ。子どもにあった絵本をすすめるという課題に対して、実験、調査、システム開発と多面的なアプローチで研究している。絵本好きなら誰でもウエルカム!

王将

宇陀先生の青春の味。宇陀先生にとって王将とは「餃子の王将」のことで、「大阪王将」は認めていない。餃子の焼き方は店によつて上手い下手があるとのこと。

お菓子大臣

研究室に常備されているお菓子の買い出しを担当する係。大臣と副大臣がいる。宇陀先生の指定により、黒豆せんべいは必ず買うことになっている。

オープンラボ

毎年研究室選択の時期になると開催される。研究室パンフレットを準備し、先輩たちが直接研究室の説

明をする。3年生だけでなく、2年生や1年生も来てかまわない。

お花見ゼミ

ゼミを桜の木の下でブルーシートを広げて行うもの。ゼミというよりはお花見。お菓子を食べたりジュース飲んだりしながら、ゆるーく研究テーマを洗い出す。果たしてこのゼミから生まれた進捗はあるのだろうか…

課題図書コーナー

研究室の一角に設けられた書籍スペース。研究室内外の人が「ぜひ読んでほしい本(漫画含む)」を置いて行っている。最初は宇陀先生のイティハーサを置くために作った机上スペースだったが、その後作品が増え続け机を圧迫し始めたので移動した。ハマるかハマらないかは読んでみないとわからない。

環境デザイン大臣

旧そうじ大臣。名称の変更に伴い掃除の仕切りだけでなく総合的な研究環境のデザインを担当することとなった。これまでに模様替えやソファ導入の実績がある。

近未来シリーズ

雙峰祭で出展する企画名のこと。グランプリを3度受賞している。国

立国会図書館のカレントアウェアネスに記事が載っている。2019年に10周年を迎えた。2023年は「近未来 Toshi-Cha」で図書とエンターテイメントの融合体験を提供する予定。

今週の松村研

松村研ゼミの冒頭で、この1週間にあった研究以外のことを話す時間。松村先生の家庭の話やゼミ生のバイトや部活の話など普段は見えにくい一面が見られて、親睦を深めるのに一役買っている。松村先生がX(Twitter)に投稿する要約は、内輪ネタを一文に切り取っているもので、たぶんゼミ生以外は理解できない。最近では欠席した人の今週を捏造することが流行っている。

情報学学位プログラムリーダー

情報の混沌を極める大学院の教育プログラム「情報学学位プログラム」を背負って立つ者に与えられる称号。現在は宇陀先生がこの称号を与えられている。何かある度に挟まれる小話にはファンが多いとか。

スクラップボックス(Scrapbox)

研究室運営に関する共有情報、各自のゼミ資料、研究会参加記録など、なんでも突っ込んでおくところ。適度なリンク構造で情報が芋づる式

に出てくるため、研究室の外部脳として機能している。

ストレングス・ファインダー

自分の強み発見をしてくれる診断テスト。34の強みから上位5位が分かる。ゼミ配属後にD付きの本が配られ、自分で診断する。研究室で強みを発揮して活動してもらいたいという期待がある。なお、「指令性」を持つ人は、まだ現れていない。

ゼミ

週一で行われる議論の時間。宇陀研は1時間しかからない。松村研は5時間におよぶことがある。必要に応じて個別ゼミを行うことがある。発表前は連日練習することも。

「ゼミ生の可能性を信じてるので」

研究の動向に煮詰まった時に、松村先生から発せられる一言。ゼミ生のことを考えて言ってくれている良心的な言葉かと思いきや、特に次の一手が決まっていけないのにこの言葉でゼミが終了するから恐怖。

知識情報概論

2020年度の授業アンケートで全学2位を獲得した伝説の講義。Rさん、Mさん、Uさんという人間に間違われるほどの人工知能が人気の秘密である。

堤先生

心優しき人文社会系の先生。困っている学生に救いの手をさしのべ、発狂するオタクを生暖かい目で見守ってくれる。今やうだまつには欠かせない存在である。冬のコミケに行くと会えるらしい。最近、これまでの多大なる貢献に敬意を表してエグゼクティブアドバイザーという称号が与えられた。

なおちゃんBOT @naotyana_bot

なおちゃんの発言をまとめたbot。常に爆笑を巻き起こす彼女の発言を残しておこうという動きから実際に作成された。例「やせたーい（とんかつを食べながら）」。日々爆笑発言が繰り出されるため、在籍時は登録が追いつかなかった。なお、XのAPI仕様の変更により天に召された。

夏合宿

夏休みの合宿。遠くに行くことと卒論／修論に関わらない研究活動が目的。これまでに、高松、函館、津、青森、熊本、広島、金沢、倉敷、米沢を訪れた。現地集合、ホテル各自確保という「合宿」の概念を覆す試みを続けている。2019年に中止して以来途切れていたが、2023年ついに復活。富山でドラえもののひみつ

道具を作るといふ噂。

7D240

我らが共同研究室。寺地研とも共同。ソファ、電子レンジ、電子ケトル、冷蔵庫が備わっており、あとシャワーさえあれば暮らすことができる環境。発表会前や卒論提出前はお風呂に入った後、また戻って夜を明かす人が続出する。共用プリンタがあるので、出力を取りにきた先生が、しばしば怪訝な目で見えを見て去っていく。

パパコレ

「パパこれ買ってー」の略。研究に必要な文献などを先生に頼むためのStackチャンネルの名前。買ってくれるのは先生なので、先生「パパ」な訳だが、指導教員をパパと表すという何とも業の深い命名である。別にリアルで先生をパパと呼んでいるわけではない。

ピザ

発表会直前などで、皆が焦りだすと先生が注文してくれる。経験則により、4人にLサイズ1枚で計算するとちょうどよい。

プチ合宿

夏休みの1週間ほど、教室を借りて、朝から晩まで集中して研究を行

う会。みんなで出前をとる昼食が楽しみ。過去、プチ合宿によって卒研が格段に進んだという例が多い。コロナ禍には、ユニオン1階講義室の広大な空間を少人数で独占するという贅沢を味わうと同時に出前館のお得意様になった。

フリーアドレス制

うだまつ研の特徴の一つ。7D240は席が固定されておらず、どこでも気分に応じて自由に席が選べる。コミュニケーションが活発になり、知識創造が起きやすい。

麺類

つくばの美味しいラーメン屋の話で盛り上がる一方で、うどん屋を巡るメンバーたちもいるらしい。今年の合宿行先会議では、地名よりご当地麺の候補が並んだとか。

夢会

研究室配属後の初ゼミで行う夢を語る会。模造紙に自分の夢を描いて発表する。過去には、「機械の体が欲しい」のような尖った夢から「孫3人と幸せに暮らしたい」とほんわかした夢までさまざま語られてきた。彼らは夢にどのくらい近づいているのか？

鈴木伸崇研究室

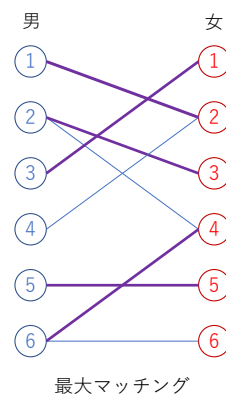
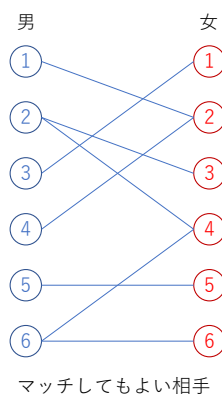
当研究室は、RDF/グラフデータや XML/HTML および CSS などの構造化データ、マッチング理論などについて研究を行っています。老若男女を問わず、意欲のある方のご参加を歓迎いたします。

RDF/グラフデータ 近年、RDF/グラフデータに対して、Shape Expression (ShEx) など記述能力の高い新たなスキーマ言語が提案されています。また、グラフデータにおいて一般的に用いられる問合せとして、パターングラフを用いたものや Property Path などの経路探索を行うものがあります。当研究室では、問合せ式が ShEx に適合するものであるかどうか（充足可能性判定）、問合せ式の包含性判定などを行うアルゴリズムを開発しています。このほか、ShEx のスキーマ進化、大規模なグラフデータの概形・要約を得る（スキーマ抽出）アルゴリズムなどについて研究しています。

XML/HTML/CSS スキーマに適合しない XPath 式を正しい式に自動修正するアルゴリズムを開発しています。構造的に正しい XPath 式は通常複数存在するので、グラフ理論を応用し、ユーザの記述した式に近いものから順にユーザに提示できるようアルゴリズムを構成しています。このほか、JSONPath や CSS の充足可能性判定、XML スキーマ進化などについて研究を行っています。

電子書籍(EPUB) 自作の EPUB ファイルには表紙が与えられていないものが数多くあります。しかし、書籍の表紙は選書の重要な手がかりとなるため、書籍の内容に合った表紙を自動的に生成できれば有用であると考えられます。当研究室では、EPUB ファイルのテキストデータを解析して、その印象に合った色およびフォントの推薦やイラストを推薦するシステムなどを開発しています。

マッチング理論 マッチング理論は、様々な好み・希望を持つ人と人、あるいは人と資源との望ましいマッチングを求めるための理論で、男女のマッチングや研修医の配属など様々な領域に使われています。この理論は主に経済学の分野で研究されていますが、本研究室では、これをクラウドソーシングのタスク割当てなど、データ工学分野に応用することを目指して研究を進めています。



ご質問があれば鈴木(nsuzuki@slis.tsukuba.ac.jp)まで遠慮なくお寄せください。

研究室の基本情報：

学生数：院生 3 名 + 学類生 5 名

ゼミの頻度：週 1 回 + α ，日程や形式は相談の上決定します

研究室：7D204 および知識情報・図書館学類長室（教員），ユニオン 3F 共同研究室 303-2（学生）

研究室 Web ページ：<http://nslab2.slis.tsukuba.ac.jp/>



情報検索のアルゴリズムを研究しています。5期生募集中。

Web サイト : <http://kasys.slis.tsukuba.ac.jp/>
 E-mail : kasys-contact-ml@klis.tsukuba.ac.jp
 今年度受入人数 : システム 3
 今年度在籍者数 : 学類生 4 博士前期 10 博士後期 2

教員部屋 : 7D 308
 学生部屋 : ユニオン2F 共同研究会議室2
 週間予定 : ゼミ 75分 個別ミーティング (隔週) 60分
 チームミーティング 75分 論文読み会 75分

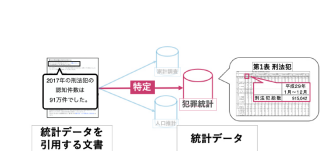
主な研究分野

本研究室では**情報検索分野**の下記の研究分野を主な対象としています： 検索モデルとランキング、ランキング学習、検索意図推定、知識ベース構築、知識ベース応用、Web マイニング、情報抽出、検索ユーザ行動分析、検索ユーザモデリング

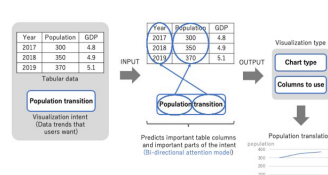
主な研究トピック

- 本研究室の主な研究トピックは**知識獲得システム**です：
1. 大量のデータから知識を自律的に獲得するシステムを構築する (例： テキストから因果関係を抽出する)
 2. 構造化された知識を人が検索するためのシステムを構築する (例： 人物検索、商品検索)

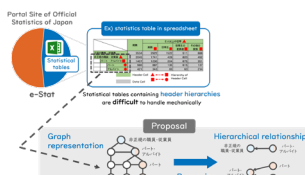
過去の研究テーマ



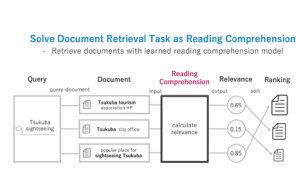
統計データを検索： 「2017 年の刑法犯の認知件数は『91 万件』という数値の根拠となる統計データを検索



データを視覚化： 表形式のデータに対して自動的に適切な視覚化方法を推定



表敬式データを理解する： スプレッドシート中に含まれる表形式のデータを理解し、表の見出し認識や階層構造を理解



機械読解によって情報検索する： 機械読解のモデルによって文書検索を行う手法を開発

年間スケジュール (予定)

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
イベント																
	研究室仮配属			プロジェクト研究発表会			着手発表会				中間発表会			卒論発表会		DEIM 参加

輪講 (週 150 分)

教科書輪講とプログラミング輪講があります。教科書は情報検索の基礎 (1 月～2 月)、言語処理のための機械学習入門 (3 月～4 月)、しくみがわかる深層学習 (5 月～6 月) を使う予定です。プログラミング輪講では Python を用いる予定です。

ゼミ (週 75 分)

自分の近況などを紹介する時間です。

個別ミーティング (隔週 60 分)

基本的に 1 対 1 で研究の内容について議論する時間です。

チームミーティング (週 75 分)

3 チームに分かれてチームごとにミーティングします。

論文読み会 (週 75 分)

1 時間程度で論文を読み、残り時間で議論する会です。

プロジェクト研究発表会

メンターに助けられながら基礎的な研究プロジェクトに参加し、その成果を内輪で発表してもらいます。

DEIM 参加

国内で開催される学会。基本的にみんな出して発表します。

阪口研究室とは？

～快適な情報の共有や伝達を求めて～

どんなことをやるのか？

- 今使っているシステムは快適ですか？
 - そうでないなら改善を目指そう！(あくまでも卒研の一環として)
- 快適なアプリの構築を！(構築作業も快適にしたい！)
 - 最近はLinked (Open) Data の利活用を中心にしていますが、それに限りません
 - 例えば、一企業に牛耳られるような心配がない、Internet本来の自立分散型の情報共有や意思伝達ツールの新たな姿を考えてみるとか？
- 情報の共有や伝達を支える技術を念頭に
 - 情報の共有や伝達を快適に行う(大目標)
 - そのために様々なアプリケーションシステム(アプリ)が構築されている
 - 「快適」には「安全」も含まれる(結果として「安心」も得られる)
- 最近はWebAssemblyにも少し注目中(かつての言語屋魂:-)
 - 外部サービスに頼らず、Webブラウザ内で入門者向けプログラミング環境を(現在進行形)

最近の主だったテーマ例(他研究室と共同のものもあり)
■ Linked (Open) Data の整備・拡充への Crowdsourcing 利用
■ Linked (Open) Data の開発・接続・検索(発見)の支援
(これまでのテーマ例は下記の3年生向けWebページをご覧ください)

キャッチフレーズは「動いてナンボの阪口研」！

電気工学やハードウェアから、ネットワーク全7層、ソフトウェアはOSからアプリケーション、そして図書館学を学んできた指導教員によるアドバイス有☑:-)

- ゼミ等: 週一全体ミーティングが通例(+個別指導等)

氏名: 阪口 哲男

Webページ: <https://www.sakalab.org/>

(3年生向けWebページはここからリンクします)

Eメール: saka あっと slis.tsukuba.ac.jp

研究室: 7D312 (春日エリア7D棟3階)

共同研究室: 学系共同研究スタジオ3 (情報メディアユニオン棟3階)



コミュニケーション理解研究室

関 洋平
筑波大学 図書館情報メディア系
yohei@slis.tsukuba.ac.jp



コミュニケーション理解研究室では、人間の言語理解の過程を明らかにしつつ、人と人あるいはコミュニティをつなぐ**コミュニケーションの支援**や、ソーシャルメディア上に現れる実生活において必要となる情報へのアクセス支援について研究を進めています。

教員室：7D-213 学生研究室：7D-140

Web： <https://cu.slis.tsukuba.ac.jp>

教員：1名 学生：8名 OB・OG：38名

自分の興味を見つける努力をしてください。

企業や自治体との研究交流を積極的に進めています。

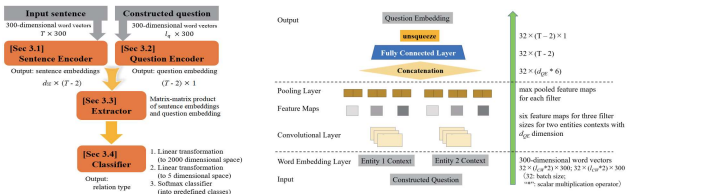
- ・東京大学とメタバース上のコミュニケーションの共同研究を開始（2023年～）
- ・日本システム技術株式会社との共同研究を実施（2022年、<https://www.jast.jp/news/15159/>）
- ・国際規格開発賞を受賞（2020年9月1日、2019年12月17日）
for ISO/IEC 30145-3 (Smart City Engineering Framework) & ISO/IEC 30146 (Smart City ICT Indicators)
- ・おたがいハマトークに出演（2020年9月16日）



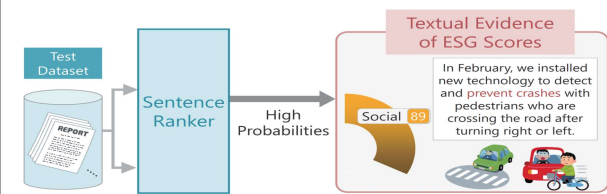
ソーシャル情報アクセス

ソーシャルメディアに現れる多くの情報を利用して、クリエイタを検索したり既存のサービスとは異なるランキング手法を提供

質問エンコーダを利用した CNN に基づく関係推定
(国際ジャーナル IJDL 採録, 国際会議 ICADL 2020 Best Paper Award Runner-up)



ESG スコアの根拠の抽出
(国際会議 IJCAI 2023 併設 FinNLP-MUFFIN 2023 採録)



音楽のジャンルと印象を用いた VOCALOID クリエータの検索 (人工知能学会論文誌 採録)
投稿型料理レシピサイト上で重複するレシピの判別
(人工知能学会誌, 第14回 W(2)研究会学生奨励賞, 第14回 W(2)研究会学生優秀ポスター発表賞, CEA 2017 採録, W(2)研究会 第6回ステージ発表採録, DEIM2016 優秀インタラクティブ賞)

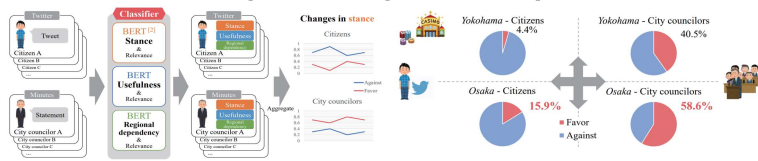
ライブイベントに依存したトピック推移の分析
(情報処理学会論文誌 TOD 採録, ACM SIGIR 2017 採録, DEIM 2017 学生プレゼンテーション賞, 平成29年度 若溪会賞, 平成29年度 図書館情報メディア研究科長表彰)

実用的レシピの判別
(CEA 2014 採録, Best Paper Award)
印象を考慮したイラスト投稿者の検索
(ACM SIGIR 2013 採録)

スマートソーシャルシティ

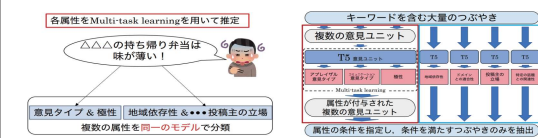
ソーシャルメディアユーザの情報を分析したり、オープンデータを活用することで行政サービスの活性化を支援

市民意見と市議会議員意見の都市間比較
(国際会議 ICADL 2022 Best Paper and Student Paper Award Runner-up)



都市を横断した市民意見の抽出

(言語処理学会論文誌 採録×2, WebDB 夏のワークショップ 2022 学生奨励賞, ARG 第16回 W(2)研究会 優秀研究賞受賞, 令和4年度 人間総合科学 学術院長表彰, 令和2年度 情報学群長表彰)



単語埋め込み表現を用いたイベント参加地域の推定 (令和元年度 情報学群長表彰)
市民のツイートを考慮した分散表現に基づく地名に対する市民の傾向の可視化
(日本知能情報ファジィ学会誌 採録, 平成29年度 情報学群長表彰)
市民のツイートを分類するための関連語の抽出 (平成29年度 総代・情報学群長表彰)
外国人観光客の相談相手となりうる Twitter ユーザの推薦 (観光情報学会誌 採録, W(2)研究会 第4回ステージ発表 採録, 平成27年度 図書館情報メディア研究科長表彰)

Twitter ユーザの投稿場所を考慮した属性推定 (ICADL 2016 採録, 平成27年度 情報学群長表彰)
地域ユーザに着目したロコミット収集 (DEIM2016 学生プレゼンテーション賞)
ハッシュタグコメントを支援するための行政文書の分割 (平成26年度 情報学群長表彰)
トピックモデルに基づく Twitter ユーザの地域推定 (情報処理学会論文誌 TOD 採録, IFAT ヤングリサーチ優秀賞, DBS 研究会学生奨励賞, 平成25年度 図書館情報メディア研究科長表彰)

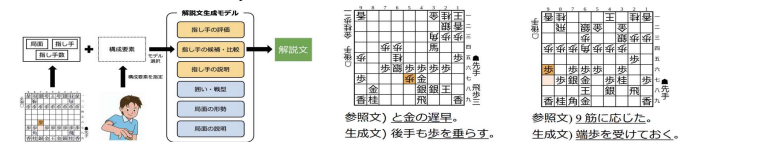
ソーシャルコミュニケーション支援

ソーシャルメディアにおける、より使いやすいコミュニケーションのあり方の提案
新たなコミュニケーションサービスの提供

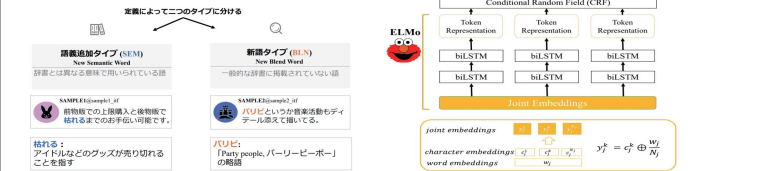
将棋解説文の構成要素を考慮した解説文生成

(ARG W(2) 第18回研究会 優秀研究賞, DEIM 2023 インタラクティブ優秀賞)

スポンサー賞 (株式会社 LayerX 賞), 令和4年度 校友会 山崎賞



単語と文字の埋め込みの結合を利用したネットスラングの抽出
(国際会議 IALP 2022, ICADL 2021 採録)



感情推定に基づく顔文字推薦

(言語処理学会論文誌 採録, 情報処理学会 山下記念研究賞, 日本語学論説資料 掲載)
投稿パターンを考慮したコミュニケーションスキルの分析 (情報処理学会 第79回全国大会 学生奨励賞)
宣伝効果を促進するための親しみやすいツイートへの言い換え (情報処理学会 第78回全国大会 学生奨励賞)

読者の完成を発信・共有するためのソーシャル付箋

(電子情報通信学会論文誌 採録, 平成24年度 情報学群長表彰)

Twitter 特有のコミュニケーション表現の抽出

(平成25年度 情報学群長表彰)

高久研究室の紹介

研究室Webサイト: <http://www.slis.tsukuba.ac.jp/takaku-lab/>

- ・ 教員: 高久 雅生 (たかく まさお)
- ・ 研究室 (居室) 教員: 7D208室, 学生: 7D221共同研究室
- ・ 学生数 (2023年度): 12名 (学類4年次: 5名, 研究生: 1名, 修士: 5名, 博士: 2名)
- ・ ゼミ指導: 研究室全体ゼミによる進捗報告 (隔週) と, 個人ごとの指導 (毎週) を行い, 研究を進めます。
※ゼミや個別面談はいずれも, 学生の希望にあわせて対面・オンライン併用にて実施しています。
- ✓ 図書館情報学と情報学の融合領域の真ん中を扱う研究室です。
- ✓ 「ひとの知的活動をアクティブに支援すること」を目標に, システムの構築や新しいアイデア, 実装の提案といった多様なアプローチによる研究を行っています。
- ✓ こんなひとにお奨め
 - 情報探索の利用者を支援する方法論や利用者の行動そのものに興味がある!
 - 電子図書館サービスのための新しい機能やアイデアを実現してみたい!
 - ウェブ上で流通する便利なデータセットの公開提供や発見などに貢献したい!
- ✓ 知識情報システム主専攻 (主) と情報資源経営主専攻 (副) から学生を受け入れています。

情報組織化

コンテンツやコレクション群をいかに効果的に整理・記述し, 分類体系や語彙体系を整備するかは図書館情報学が古くから扱ってきた重要な課題であると同時に, ウェブ時代における情報組織化をどのように行って, 共有するかは重要な課題となっています。

高久研究室では, 書誌情報やその他の類縁領域の情報をLinked Dataの方法論により共有する手法, 効果的にLinked Dataを構築したり, Linked Dataの情報を探る手法などの開発を通じて, 研究領域に貢献することを目指しています。

電子図書館

電子図書館は, 既存の図書館サービスをデジタル資料やICTツールを用いて補完, 刷新, 強化し, 新しいサービス機能を実現する研究領域です。情報検索やエンティティ同定, 情報推薦, 可視化, マイニング, 利用者行動の分析等の隣接領域の手法を応用したり, 図書館の現場のニーズに基づくサービス仕様の分析や精緻化といった幅広い役割が求められています。

高久研究室では特に, 検索機能の向上, Web APIマッシュアップによる新機能の提案, デジタルアーカイブズの利活用といった研究テーマのもとに電子図書館の実現に取り組んでいます。

情報検索

情報検索とは, 対象文書群を適切に索引付けし, 利用者の情報要求に基づき, ニーズを満たす適合文書を的確に返すための手法にかかわる研究領域です。利用者の情報要求の分析, 文書構造の同定, 文書の索引付け, 文書ランキング, 検索結果の評価等の手法に多くの研究課題が存在します。近年では特に文書種類や情報要求の多様化と高度化が見られ, ますます多くの研究が必要となっている研究領域の一つです。

高久研究室では, 対象文書のジャンルを特定した検索システムの構築や, 新しい検索手法, 検索インタフェース, 検索評価手法の開発を目指しています。

情報探索行動

情報探索行動とは, ひとが情報を求めて行動する様子を追跡し, それらにかかわる要因をモデル化し, 探索支援システムへの応用等を図る研究領域です。近年では, ウェブ環境下での記録機器, ソフトウェア等の発達により, より精緻に情報探索の過程を計測し, 情報アクセスのために役立てることが期待できます。

高久研究室では, 探索過程の記録や, 探索記録からの知識発見, 探索者の知識変容の様子を捉える方法論の開発, 特に, 探索タスクや情報ニーズが探索行動にどのように影響しているか解明することを目指して研究しています。

過去の卒業論文テーマの例

- ・ 既知事項検索を指向した楽曲の曖昧検索手法の提案
- ・ Instagramの写真を利用した飲食店検索支援システムの構築
- ・ 日本のテレビ放送における番組のシリーズを同定する手法の開発
- ・ 化粧品品の購買支援のためのSNS情報の抽出提示手法の研究
- ・ 新書本を用いた学問発見支援システムの構築
- ・ 主題情報に基づく文献探索支援の研究ー検索結果の可視化と主題ファセットを用いた手法ー



連絡先: 高久 雅生

- ・ Email: masao@slis.tsukuba.ac.jp
- ・ Twitter: [@tmasao](https://twitter.com/tmasao)

時井研究室

情報の**可視化**をテーマに研究をおこなっています

知識の集約、伝達をテーマに

2016-2022 年度 AR + 絵画鑑賞, 知識集約, 身近な科学,
探究的学習, Kinect + 浮世絵, オノマトペ, 調理 + 論理的思考,
数学的リテラシー、可視化支援、スポーツ + 可視化支援、
データリテラシー + 地理情報、統計学 + AR、ジャーナリズム + AR、
ランニング + データ解析、データリテラシー + 批判的思考
2023 年度 パラドックス + AR、浮世絵を読み解く

データから可視化し、傾向をみる
データとスポーツの知識と結び付け
自身のフォームを振り返る



関連する情報へと興味を広げ、
情報を体系的に眺める



データを眺めて、可視化と解析を繰り返す
プロセスからデータリテラシーを習得する

年間スケジュール

10 月 オープンラボ
12-2 月 基礎勉強、研究調査、
ミニシステム開発
3 月 研究会等で研究調査
4 月～ システム開発、実験、論文執筆
3 月 学会発表

どんな研究があるのか。どんな技術を習得してみたいか。
などなど、デモ展示をみて、これからの卒業研究をイメージし、
テーマを具体化していきます。



システム開発中



図情図書館と共に展示

人間・情報・技術研究室 Human・Information・Technology Laboratory

- ・ 指導教員：金 宣経 (きむ せんきょう)
- ・ 教員部屋：7D 315 / 共同研究室：ユニオン共同研究スタジオ 3
- ・ 連絡先：kimsun@slis.tsukuba.ac.jp

研究分野

下記の研究分野を主な対象としています。

学習支援システム、ヒューマンインターフェース、
ヒューマン・ロボットインタラクション、認知科学

主な研究テーマ

下記の研究分野を主な対象としています。様々な場面での情報の取り込み又は学習について研究しています。最近では特別支援教育、認知機能の変化に関する研究に力を入れています。

(過去) 人間を中心としたテーマ

1. ロボットが大学生の説明行動に及ぼす影響
2. eスポーツプレイヤーに向けた相互フィードバックシステムの提案
3. Web情報におけるスリーパー効果に関する研究

(過去) システムを中心としたテーマ

1. 仮想現実における二段階の文字入力手法の提案
2. eスポーツプレイヤーのパフォーマンスを高めるインターフェースは？
3. 自閉症を持つ人の学習・情報習得のため、どのようなシステムのサポートが必要か？

主な研究手法

1. 人を対象にした実験
2. 生理学的測定
(ウェアラブルセンサーやアイトラッカーを使います。)
3. ビデオ分析
4. アンケート

受入人数

知識情報システム主専攻・知識科学主専攻 3名

受け入れの条件

1. 興味のある分野やテーマ、研究計画についてメールを送ること
2. 希望するテーマが指導可能なものであること
3. 面談をすること

ゼミの流れ

11－12月：個別ミーティング

1－3 月：卒研テーマ決め

- ✓ 週1回 (75分) ゼミ
(興味のある論文と研究法について話し合う)

4－5 月：着手発表の準備

- ✓ 週1回 (75分) ゼミ
(自分の研究進捗と研究法について話し合う)

6 月：着手発表と振り返り

7－9 月：倫理審査及び中間発表の準備

- ✓ 週1回 (75分) ゼミ
(自分の研究進捗と研究法について話し合う)

- ✓ 夏休みを含む

10月：中間発表と振り返り

11－12月：データー分析、卒研執筆

- ✓ 週1回 進行状況の共有

1月：論文提出・研究発表会

個別ミーティング

月1回 30～60分

1対1で研究や近況について話し合います。

緊急の話し合いが必要であれば、追加ミーティングをリクエストすることができます。

融合知能デザイン研究室（森嶋・伊藤研究室）



■ 研究室について

2017年に立ち上げた Human-in-the-loop Big Data & AI の研究を進める研究室です。
2020年からデータマイニングを専門とする新任の伊藤寛祥先生がメンバーに加わりま
した。

防災，健康，教育，環境，飢餓，貧困・・・人類が直面する困難な問題を解決する
ために，人々と計算機の知を結集して立ち向かわなければなりません．本研究室では，
人類が史上初めて手に入れた，数十億規模の人々と AI のネットワークを活用し，これ
らの協力により創出される「融合知能」をデザインする科学技術を確立します．研究
のための研究を行うのではなく，世界的な研究成果を出しながら，成果を活用したプ
ラットフォームを自ら開発し，様々な領域の専門家と協力して，これまで諦めていた
問題の解決とよりよい社会を実現することを目指します．

研究テーマ & キーワード

Human-in-the-loop Big Data & AI

Human-in-the-loop(ヒューマンインザループ)とは機械が得意な作業と人間が得意な作業を組み合わせ問題解決する考え方です。今後の社会をデザインする重要なキーワードとして注目を集めています。本研究室では、ビッグデータや機械学習と Human-in-the-loop のアプローチを組み合わせる研究を行っています。

自然災害発生後の被害状況を即座に把握する

世界遺産・被災地の記録を未来に残す

障害者と健常者の共生社会を作る

みんなの力で真実を発見する

AI と群衆が教え学び合う

皆の力を合わせてアプリを作る

市民の意見を集約して市政に貢献する

漫画がより楽しめるようコンテンツを活用する

クラウドソーシング・ヒューマンコンピューテーション

ビッグデータ・データサイエンス

ソーシャルネットワーク分析

データマイニング

ソフトウェア工学

プログラミング言語設計

データベース

人工知能・機械学習

人間工学・認知心理学

HCI・ヒューマンインタフェース



クラウドソーシングプラットフォーム Crowd4U の開発を通じて各々が「基盤となる理論」や「フィールド実践」を研究することが特長です。研究テーマの決め方はプロジェクトを引き継ぐ、新たに与えられる、自ら提案するなど様々です。

主な活動

ゼミ週3時間(研究,文献調査,開発),個別ミーティング週1回,勉強会随時,合宿,国内・海外学会発表

過去の主な進路

Amazon Web Service Japan, 青森放送, ウェザーニューズ, SCSK, NSSLC サービス, NTT 研究所, NTT コミュニケーションズ, NTT データ, NTT ドコモ, オールアバウト, キヤノン, クックパッド, コーエーテクモゲームス, 高校教員(情報科), サイバーエージェント, 新日鉄住金, スミセイ情報システム, ソフトバンク, DMM, トーアエイヨー, 日本NCR, 日本マイクロソフト, 野村総合研究所, Preferred Networks, 日立製作所, PWC, 富士通, マックスプランク研究所, みずほ情報総研, Yahoo! JAPAN, 楽天, リクルート, ワークスアプリケーションズ

募集情報

研究室説明会の詳細は研究室 Web サイトに掲載します。例年早い時期に開催しています。

募集人数: 創成学類3名, 知識学類5名

面談問い合わせ先: fusioncomplab-staff@ml.cc.tsukuba.ac.jp(森嶋・伊藤) <https://fusioncomplab.org>



メディア・インタラクション研究室（鈴木佳苗研究室）

本研究室では、個人のメディア利用、図書館や学校などのさまざまなメディア環境の現状と課題、メディア利用やメディア環境が及ぼす影響などを検討しています。主な研究対象のメディアは、本、テレビ、テレビゲーム、インターネットなどです。最近、メディアやさまざまな資料を活用した学習支援の方法とその効果の検討なども行っています。



2023年度研究室学生：学類生2名（情報資源経営主専攻）・大学院生7名



研究テーマ：主な研究テーマ、これまでの卒業研究のテーマの例を紹介します。

主な研究テーマ	卒業研究のテーマの例
児童図書館サービスの現状と課題	「乳幼児が絵本に触れ合う場としての公共図書館の環境づくりに関する検討」
学校や地域における子どもと読書にかかわる取り組みの実践と評価	「学校図書館における電子書籍貸出サービスの現状と課題」
メディア教育や情報教育の実践と評価	「高等学校の理科分野授業におけるデジタル教材の学習効果の検討」
（広告など）メディアメッセージの分析	「健康食品におけるCM 広告の特徴」
読書やインターネットなどのメディア利用の影響	「小学生の読書体験が学習意欲に及ぼす影響」
学習過程の解明	「学習ログを活用した大学生の学習過程への影響因と学習効果を高める方法の検討」



研究キーワード：メディア、メディア教育、学校図書館、公共図書館、学校、調べ学習、探究学習、学習過程、リテラシー、社会性 など



主な研究の方法：調査、実験、内容分析など



主な研究対象者：幼児、小学生から大学生、保護者、学校関係者、図書館関係者など



2023年度のゼミ



研究室 Q & A

Q1. ゼミについて
A. 週に1回ほどのペースでゼミがあります。ゼミの雰囲気はなごやかです。
Q2. 研究のスケジュールについて
A. 12月からしばらくの間は、自分の関心のあるテーマに関連する文献を調べつつ、ゼミ全体で研究の方法について学びます。6月の着手発表会までに目的と方法をできるだけ考えて、その後、調査や実験を始めます。11月頃から論文の執筆開始です。発表会の前に小野研究室と合同でゼミを行っています。
Q3. 研究室について
A. 研究室は1階にあり、PC、プリンタ以外に、調査や実験、分析を行うための文献などもあります。
Q4. 卒業研究について
A. 2023年度の卒業研究のテーマは、「体験と視点取得との関係に関する研究」「高校生の学習場面における資料活用の実態と課題及び支援方法に関する研究」です。



研究室紹介 吉田右子（研究室410）
yyoshida@slis.tsukuba.ac.jp



現在の研究関心

- 社会的に孤立した人びと・不利な立場に置かれた人びと：移民・難民・先住民、LGBTQ、経済的困窮者、非識字者
- 研究方法：資料調査・フィールドワーク
- 研究課題：文化的格差の解消にかかわる公共図書館の可能性



卒業研究の領域と研究方法

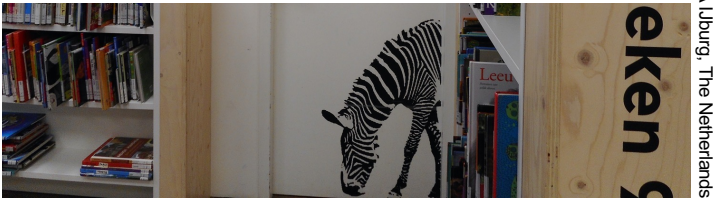
- 生涯学習の空間としての公共図書館の役割に関わる実証的研究
- 公共図書館の理念および実践にかかわる歴史的研究



これまでの卒業研究

詳しくは卒業研究指導方針のリストをどうぞ！

- セクシュアル・マイノリティの子どもを対象としたアメリカの公共図書館サービス
- スウェーデンにおける移民・難民への図書館サービスについて
- オーストラリアにおける先住民族に対する公共図書館サービス
- 東南アジア諸国のコミュニティ学習センターにおける図書館の役割
- 教育格差を背景とした子どもへの学習支援の実態
- アイヌ文化継承活動の現状と課題



研究室配属から卒業論文提出まで

12月	研究方法について学びます
1月	研究テーマについていろいろな角度から検討して研究のフレームを固めていきます
2月	先行研究の調査【ゼミ内発表会】
3月	研究テーマの確定
4月	研究方法と論文構成の検討・予備調査と執筆の開始
5月	予備調査
6月	【着手発表会】研究方法の確定・本調査の計画
7月・8月	本調査
9月	調査の中間まとめ・研究構成の再検討
10月	【中間発表会】追加調査
11月	追加調査の取りまとめ
12・1月	論文の総仕上げ・提出・【最終発表会】



小泉研って、どんなところ??



当研究室では、公共図書館の政策、経営、サービスや、地域における図書館の在り方についての研究をしています。

本年度の四年生の研究テーマはこちら！

『現代日本の公共図書館建設時における市民協働の実態』

『大学図書館の障害者サービスにおける現状と課題』

『東京都立図書館における基本計画の変遷』

『公共図書館の複合館における平面構成の特徴と課題』

『公共図書館のヤングアダルトサービスの実態とその課題』

キーワードは「**図書館**」ですが、図書館情報学を幅広くカバーしていますので、小泉研といえばこれ！とはなりにくいのかも。小泉先生のご専門は公共図書館ですが、大学図書館や民間図書館でも担当していただきます。やりたいテーマがある場合は諦めずに一度面談に行ってみましょう！

就活など人生相談に乗ってもらうゼミ生もいます…

【研究室の環境】

PC、ソファ、冷蔵庫、レンジ、ポット、優しい先輩など…気になる方は **7D340** まで遊びにきてくださいね♪

【ゼミの様子】

議論が活発で刺激になります。研究や発表の課題を発見、指摘し合うことで論理的な思考が鍛えられます！

発表が苦手でも大丈夫！

【普段のゼミは？】

3月まではグループでの共同研究を、4月からは個人の卒業研究を行います。ゼミ合宿もあります。大学院への進学を希望する学生は、国際学会などにも参加しています。ゼミは、だいたい1～3時間ほど。宅通も無理なく参加できます！ゼミの雰囲気がとてもいいです。



小泉ゼミ一同、皆さんの訪問をお待ちしています！



著作権法の研究室

研究室について

著作権法を中心に、知的財産法（特許法、商標法、不正競争防止法など）に関する研究を行います。研究手法としては、判決や論文等の文献に基づいて、条文等の解釈論、あるいは立法論や制度のあり方を論じます。原則として、学期中週1回ゼミを行います。ゼミでは、各自の研究成果を報告してもらい、報告内容について議論を行います。

主専攻：情報資源経営主専攻

指導教員：村井麻衣子

募集人数：3名

現在のメンバー（2023年度）：学類生1名
（研究生や大学院生がいる場合は合同で行います。）

著作権法の研究とは？

著作権法は、情報の一定の利用行為を法的に規制するものです。そのため、権利者の利益と利用者の利益のバランスをいかに図るかが課題となります。法律のあり方は、社会的・技術的な環境により大きな影響を受けます。現代の社会にとって、よりよい著作権法とはどのようなものか、皆さん自身で考えてみてください。

研究テーマの決め方

自分の興味のあるテーマを選んでください。判例評釈（特定の判決についての解説）を書くつもりで一つの事例（判決）を中心に検討してもよいですし、法律上の論点や制度を取り上げてかまいません。

最近のテーマ例：

- ・ AI 生成物と著作権法
- ・ 音楽教室事件
- ・ 令和3年著作権法改正

ゼミの進め方・全体スケジュール

ゼミでは、著作権法の基礎を確認してから（目安：12月～3月：プレゼミ）、各自のテーマに関連する資料の内容の発表してもらったり（目安：春 AB 頃まで）、自分の卒業論文の一部を発表してもらう（目安：春 C 以降）という形で進めます。着手・中間・最終発表会の前には、発表資料の確認や発表練習を行います。9～10月頃までに論文の初稿を完成させることを目指し、11月～12月にはその修正や最終発表会の準備を行うイメージです。ゼミで検討や議論を重ね、考察を深めていく過程が大切です。

関連科目

「知的財産概論」、「知的財産権論 A」、「情報社会と法制度」、「情報法」などの法律系科目が関連します。研究室を希望される場合は、「知的財産概論」、「知的財産権論 A」を履修していることが望ましいです。特に、「知的財産権論 A」では、裁判例や文献の調べ方などについて実践的に学ぶことができるので、この分野に興味のある方は、ぜひ履修してください。

先輩の声

「落ち着いた雰囲気でのゼミです。（比較的）少人数のゼミなので、先生や他のゼミ生からたくさんアドバイスをもらいながら自分の研究を進めることができます。」（22年度卒業 中山桃帆さん）

詳しくは・・・卒業研究指導方針を参照してください。質問などがあれば、メールでご連絡ください。



研究室概要

図書館情報メディア系 小野 永貴（おの はるき）

- ・ 専門分野： 学校図書館，情報教育，図書館情報学 等
- ・ 教員研究室： 7D114室
- ・ 教員連絡先： milkya@slis.tsukuba.ac.jp
- ・ 学生研究室： 7B240共同研究室
- ・ ゼミ形態： 原則週1回（長期休暇中などは長めのゼミを不定期実施）

本研究室が扱う研究領域

人々は学習するとき、本や論文など、何らかのメディアを利用しながら学びます。特に中高生の場合、デジタル教科書や授業映像といった電子媒体も、重要な学習メディアとなります。

現在の中学・高校で行われる探究学習は高度化しており、これらの多様なメディアを駆使して学ぶことが、中高生には求められます。しかし、これは大変難しいことで、誰もが最初は不安を抱えるものです。

この不安を解消し、中高生が安心して探究成果を生み出せるようにするには、よりよい指導法の確立や支援システムの構築が望まれます。

本研究室では、この実現に必要な基礎データや要素技術を明らかにすべく、様々な学校現場と連携しながら実践的な研究を行っています。

キーワード

学校図書館の居心地
本棚・書架・展示
探究学習・授業支援
高校「情報」教育
情報リテラシー教育
図書館不安・研究不安
ビブリオバトル
プレゼンテーション
中高生の発表指導

今年度のメンバー募集

本研究室は2022年度に新設された研究室です。今回は第3期の募集となります。まだ人数も少ない小規模研究室ですが、新しい研究室の活性化へ前向きに関わって下さる皆様を歓迎します。詳細は「卒業研究指導方針」を必ずご覧のうえ、事前面談にお越しください。

＜募集人数＞ 情報資源経営主専攻：定員3名／知識情報システム主専攻：2名以内

特に今年度は、以下の関連テーマに関心をもつ方を、重点的に募集します。

1. 知的書評合戦「ビブリオバトル」に関する研究
2. 中学・高校の探究学習における成果発表の指導や、プレゼンテーションの向上支援
3. 中高生の本棚に対する意識の解明や、学習テーマに応じて本棚や展示を動的に再現する技術開発
4. 高学力層にとって居心地の良い学校図書館とは、どのような場/機能か？
5. 校内の出来事を記憶する学校図書館：学校の動画アーカイブとしての学校図書館の可能性
6. 高校の教科「情報」の指導実態：大学入学共通テストへの導入の影響は？



高良研究室

○ゼミの概要

高良研究室は情報法分野を研究する研究室です。

情報法領域は、情報通信技術と法に関するICT法の領域、メディアと法に関する領域、情報保護や情報の利活用と法に関する領域です。

情報法に関する領域であれば、幅広く研究可能です。

○募集人数

3人（最大5人）

○ゼミの頻度

ゼミは原則週1回です（プレゼミ・卒研ゼミ共通）。現在、日時は固定せず、ゼミ生と日程調整を毎回行っています。少人数の場合は柔軟に対応します。

○これまでの卒論テーマ

高良研究室は2021年度から始まった新しい研究室です。これまでのゼミ生の研究テーマは、名誉毀損、情報公開法、個人情報保護法、AIと法、ヘイトスピーチ、児童ポルノ規制などです。

○卒論指導方針

プレゼミでは法律文献に慣れてもらうために、法律論文の輪読を行います。

4月からは、各自文献調査を行ってもらい、毎回ゼミで進捗状況の確認と指導を行います。希望に応じて個別指導を行います。

○指導教員：高良幸哉

2020年1月から筑波大学勤務

研究テーマ：刑事法（サイバー犯罪・児童の権利保護など）、情報法（情報通信技術と法、情報保護など）

○連絡方法

高良にアポイントを取る必要がある方は、takara@slis.tsukuba.ac.jp までご連絡ください。

1. 研究分野

- ・ 公共図書館における高齢者サービス, ユニバーサルサービス
- ・ 高齢者に向けたユニバーサルな情報環境の実現に関する研究
- ・ 情報と人間（行動や認知, 心理）の関係に関する研究

ー 社会調査や実験などによる定量分析から明らかにします

関連するキーワード

図書館, ユニバーサルサービス, 高齢者, 情報行動, 学習
認知, 心理, 定量分析

2. ゼミ概要

- ・ 週1回 1-2時間程度（曜・時限は相談の上決定します）
- ・ オンライン（Teams, Zoom）と対面の併用
- ・ 進捗の報告とディスカッション（それぞれの人が毎週）
- ・ 月1回程度 呑海研究室との合同ゼミを実施
- ・ ゼミ合宿は行いません

3. 年間スケジュール（目標）

12月ー1月	研究のための基礎学習, 先行研究の調査
2月ー4月	研究テーマ決定, 研究計画, 調査（実験）計画
5月	着手発表会準備
6月	着手発表会
7月ー8月	調査（実験）準備
9月ー10月	調査（実験）
10月	中間発表会
11月ー12月	分析, 論文執筆
1月	論文提出, 最終発表会

4. 過去の卒業論文のテーマ

新しくできた研究室なので, 過去の卒業生はいません

西川研究室

研究室の概要

教員名：西川 開（ニシカワ カイ）
連絡先：knishikawa@slis.tsukuba.ac.jp
研究室：7D313

研究分野について

デジタル化された学術情報や文化資源等の生産・管理・利用・保存に関する制度や政策について、実証的あるいは理論的な研究を行います。
また、学術情報流通や科学計量学、科学技術政策に関する研究テーマについても受入可能な場合があります。

キーワード/トピック

オープンサイエンス、オープンアクセス、研究データ、デジタル保存、知識コモンズ
デジタルアーカイブ、データガバナンス、インパクト評価、ジャーナル
データジャーナル、研究データリポジトリ、内容分析、社会調査、ケーススタディ

ゼミについて

- ・ 原則週1回（時間・曜日・時限については相談の上決定します）
- ・ その他、希望・必要に応じて個別に対応する予定です
- ・ 今年新しくできた研究室なので、これまでの在籍者は0名です
- ・ 今年度の受入人数は3名を予定しています
- ・ 研究室への配属を希望する方は、上記連絡先からアポを取り、面談を受けてください

年間スケジュール（目安）

12月～ 1月	研究のための基礎学習、先行研究レビュー
2月～ 4月	研究テーマの決定、研究計画の立案
5月	着手発表会の準備
6月	着手発表会、研究計画の見直し
7月～ 9月	調査準備、調査実施
9月～10月	暫定的な調査結果の取りまとめ
10月	中間発表会
11月～12月	調査結果の分析と論文執筆
1月	論文提出、最終発表会

原 研 究 室

◆研究内容はどんなものですか？

指導教員の原 淳之です。私たちの研究室には、社会における多様なメディアの特徴やそれと読書や図書館との関係を、日本語や英語で研究する学生が集まっています。

例えば、今年度のゼミ生は、イギリスの公共図書館で広がるウェルビーイングの向上を目指す新しい型の読書推進の研究、若者が好むアニメ・漫画・小説における表現の特徴についてマルチモダリティに着目した研究、公共図書館のヤングアダルト・サービスにおけるブックリストの活用に関する調査、TikTok や YouTube を使って個人や出版社が本を紹介する動画の特徴の研究（最近注目されている BookTok など）等に取り組んでいます。ちなみに現在のゼミ生は5名です。

◆卒業研究ってどんなふうに進めるのですか？

研究方法は各自のテーマによって、何がふさわしいかを考えながら進めています。質的・量的な調査のどちらも考えられます。テキストの語彙を量的に分析したり、インタビュー調査をしたりすることもあります。エビデンス（根拠となる事実やデータなど）に基づいた研究を意識しながら進めます。みなさんはレポートを書くときに、感想のような考察になってしまったことはありませんか。研究では、そうならないように気をつける必要があります。研究方法（質的・量的）が多様であるせいか、高校のときの文系／理系を問わず、どちらの学生も研究室に所属しています。

研究指導は教員の研究室（対面）やオンラインで、週1回のペースで行っています。個別指導のほかにも、みんなで集まって研究報告をしたり、一緒になって考えることもあります。論文はもちろん各自で執筆しますが、学類の研究発表会の前には、みんなでプレゼンの練習をしたりもします。

あと、指導教員は、ドイツのテュービンゲン大学日本文化研究所やベルリン＝フンボルト大学の図書館で仕事をすることがあります。ドイツの図書館に興味のある学生もいましたらどうぞ相談して下さい。

◆研究室の雰囲気は？

明るくて賑やかです。《楽しい企画》もあります。ここ数年は新型コロナウイルス感染予防への対応から難しかったのですが、例年は、みんなでゼミ旅行（軽井沢、那須高原、湯西川温泉など）に行き、さらにバーベキューや花見などをする年もあります。海外から研究者や学生が研究室を訪ねてくるときには、英語でのコミュニケーションにも挑戦してもらいます（昨年はドイツからの留学生がいました）。ところで《進学・就職》ですが、大学院（博士前期課程 情報学学位プログラム）への進学の他、国立大学法人職員、地方公務員（公立図書館、学校図書館の司書・学校司書も多いです）、図書館サービスのコンサルティング関連企業、映像・音楽エンタテインメント関連企業、IT 企業など、先輩たちは全国で仕事をしています。



原研究室ゼミ生の様子（2023年9月）

◆他に学生に伝えたいことは？

研究テーマは最初からきちんとしていなくても、ゼミで良いテーマに洗練させていきますので、まずは研究室を訪問して相談して下さい。研究室訪問の希望をメールで送ってもらえれば面談のための時間をお返事します。

◆ゼミ生による研究室紹介

— 気兼ねなく発言できる雰囲気 —

私たちの研究室は週に1回のゼミがあります。ゼミの後もみんななかなか帰らず、もろもろの雑談をワイワイ楽しくやっています。4年生になると授業がほとんどなく、なかなか学類の友達と会うこともなくなってしまうので、週1でおもいっきりおしゃべりをし、良いストレス発散になっています。私は都内で企業に就職活動をしてきましたが、面接の場で自分の卒業研究のことや最近の出来事を聞かれることが多くありました。卒業研究の説明はゼミ内で随分やってきたおかげでスラスラと話すことができましたし、みんなで話した内容は研究に関わりがないことでも良い話の種になりました。悩んだり挫けそうになった時も、みんなに話を聞いてもらったり、応援してもらったり。就活を無事に切り抜けられたのはこの研究室だったからだと思います。だって、私たちが《よく遊び、よく学べ！》をモットーに楽しい企画もたくさん立てています。3年生の3月には新潟にスキー旅行に行きました。この旅行は雑談でポロっと出た話が盛り上がりつつ実現したものです。6月には他の研究室の友達も誘ってバーベキューをしましたし、研究室のメンバーの誕生日にはケーキを用意して誕生日パーティーも行っています。何かやりたいことを言うと先生も含めた全員が聞いてくれて、積極的に持ちかければどんどん実現します。このように、研究に関することでも、雑談であつても、自分の意見を気兼ねなく発言できる雰囲気が原研究室の何よりの魅力なのではないかと思っています。

（研究室 卒業生 武田未来さん）

情報資源経営主専攻 村田研究室

指導教員： 村田 光司
教員部屋： 7D404
共同研究室： 7D518
今年度学生数： 4年生3名
E-mail: kmurata@slis.tsukuba.ac.jp

2021年度から活動している研究室です。

研究キーワード:アーカイブズ、過去の記憶と情報、歴史学(西洋史)、
デジタルアーカイブ、文化遺産、古文書・写本、古天文学

受け入れ可能なテーマ(例) ・古い時代の記憶(神話や伝承など)・情報・モノ・アーカイブズ・図書館・写本などの形成・管理・利用(過去・現在・未来) ・過去の文字資料からのデータ抽出・分析など ・有形・無形の文化遺産の資源化(デジタルアーカイブなど) ・海外のアーカイブズ これまでの卒論のテーマ: 災害伝承碑の活用実態、まちかど博物館、法帖 デジタルアーカイブの活用、日本刀の逸話、 妖精伝承、アーサー王伝説	ゼミについて ・全体ゼミ月2～3回、個人面談月1+回 ・3年のうちはアーカイブズや記憶関連の基礎的文献を読みます ・4年生は研究の進捗発表と議論 ・たまにどこかに出掛けます (今年は水戸に行きました) ・ゼミ内容やイベントは学生の希望に応じて決まります
教員の研究テーマ ・ヨーロッパ古代・中世のアーカイブズ・古文書 写本・貨幣など歴史資料研究 ・過去の天文記録を用いた地球環境史の研究 ・古代・中世のモノ資料(建築物、貨幣など)の研究 資源化(デジタルアーカイブ) ・研究者アーカイブズ(20世紀日本の海外調査 記録) (https://researchmap.jp/kojimurat)	 ▼徳川ミュージアム  ▲弘道館

年間スケジュール(仮)

12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
仮配属 文献購読・発表				研究 テーマ 決定	着手発 表		施設体験など			中間発 表	卒論発 表		



「知識情報・図書館学類誌MILK」Web公開中。
過去のバックナンバーもご覧いただけます。
<https://milk.klis.tsukuba.ac.jp/>
ご意見・ご感想お待ちしております!

Credit

知識情報・図書館学類 MILK 研究室紹介号

- 発行者 鈴木伸崇(知識情報・図書館学類長)
- 発行日 2023年10月3日
- 編集部 小松史乃 田中大陸 大橋桃香 岸岡あや 伊藤岳
- 協力 知識情報・図書館学類 各主専攻の先生方